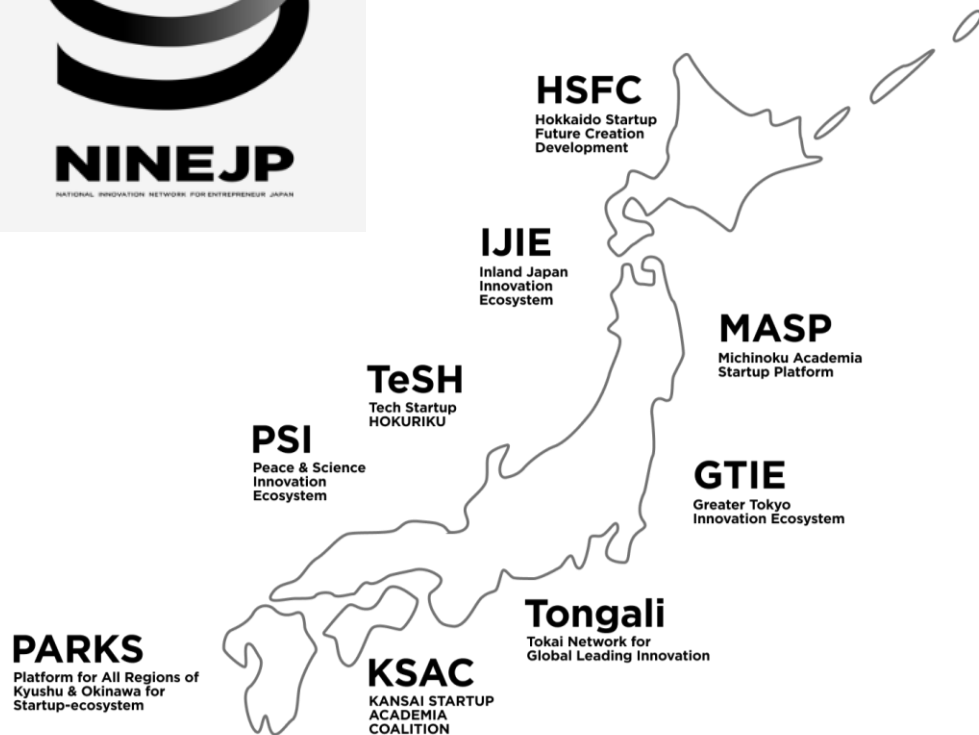


大学スタートアップ全国ネットワーク事業（NINEJP） の概要とバイオメディカル分野の支援に関する課題

渡部俊也（NINEJP 戦略会議座長）



「つながり」と「見える化」で、未来を共創する

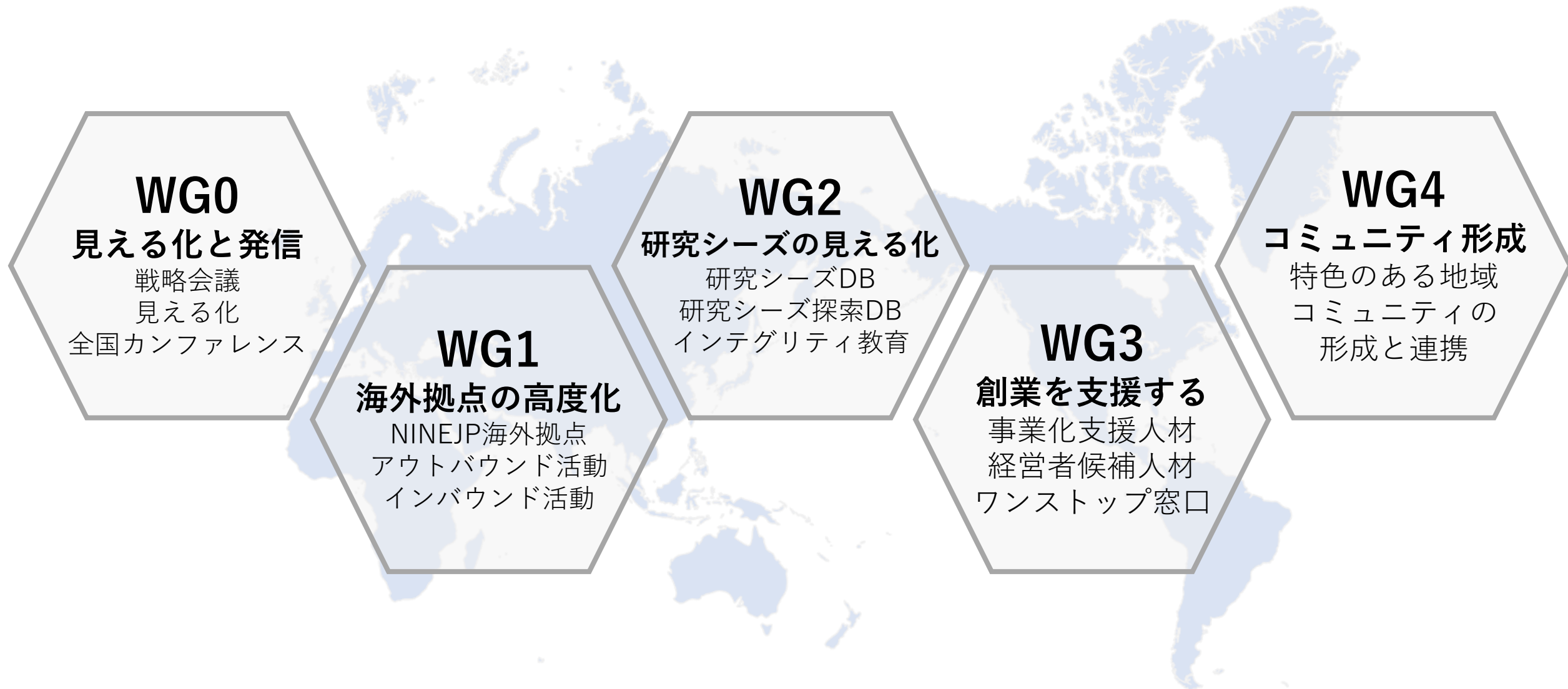
NINEJPは、全国9拠点の大学発スタートアップ支援プラットフォームが連携し、日本全体でグローバルに通用する事業を生み出すことを目的としたイノベーションエコシステムです。

全国160以上の大学や研究機関だけでなく幅広いステークホルダーと「つながり」、その多様な観点から各拠点で育まれている技術シーズの価値と可能性を「見える化」することで、社会課題解決へのビジネスアイデアへと磨き上げます。



<https://ninejp.org/ja>

文部科学省 大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 全国ネットワーク構築支援事業
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）：<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/su-ecosys/index.html>



[参考] 経営者候補人材に関する情報共有の仕組み

スタートアップ・エコシステム共創プログラム
大学発スタートアップ
CxO候補募集サイト

本サイトの事業内容 案件の紹介 大学PF 応募の流れ よくある質問 案件一覧 参加申請

STARTUP

UNIVERSITY

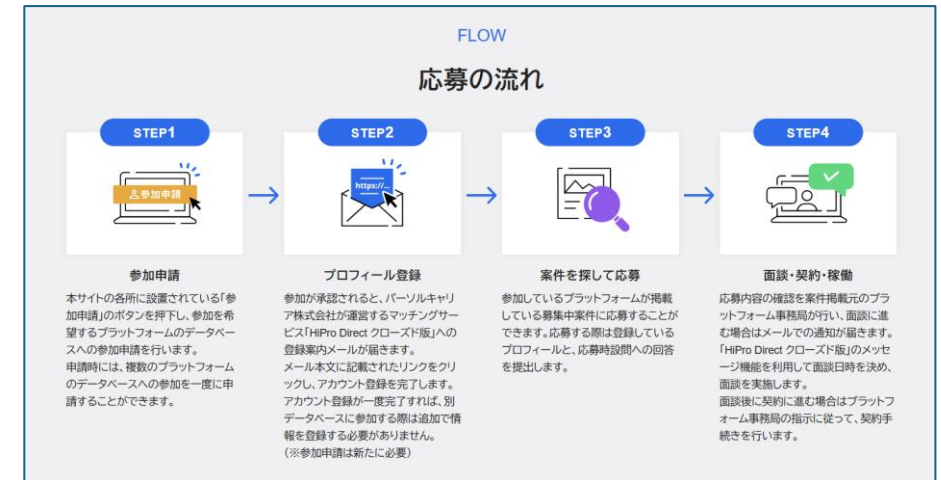
大学発スタートアップで、
CxOを目指せ。

About Program

スタートアップ・エコシステム共創プログラムとは

「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」は、大学等発スタートアップの創出にポテンシャルのあるシーズを全国から引き出し、国際市場への展開を含め、大学等発スタートアップの創出に向けた取組について質量ともに充実させるとともに、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを、参画機関を拡充しながら形成する活動を支援します。

<https://cxo-univ-startup.jp/>



マッチング実績のある過去案件例

【42名募集】九州・沖縄・山形の大学発スタートアップでCxO！（9/15中）

応相談 リモートワーク中心

【半導体ベンチャー】創出を支援するブレCxO募集！～社会を支える半導体分野で新価値創造～

応相談 応相談

【環境系】ベンチャー創出を支援するブレCxO募集！～研究技術による社会課題解決に挑戦～

応相談 応相談

【宇宙航空系】ベンチャー創出を支援するブレCxO募集！～注目領域で新価値創造に挑戦～

応相談 応相談

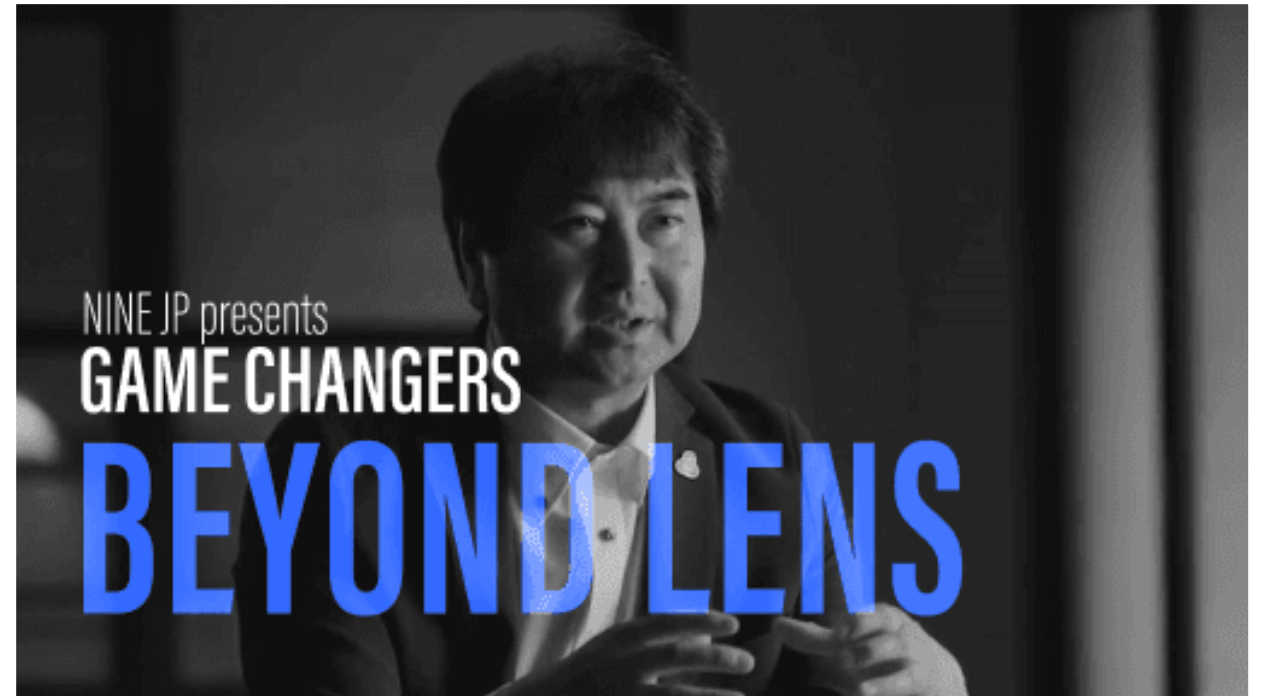
【ロボット・AI】ベンチャー創出を支援するブレCxO募集！～最新技術で社会や産業を変革～

応相談 応相談

【バイオ】ベンチャー創出を支援するブレCxO募集！～医療を革新する技術の社会実装に挑戦～

応相談 応相談

活動内容の紹介



- BioJapan@横浜にて、全国カンファレンスとして、全国9拠点のシーズ及びスタートアップの代表チームを公募し、ピッチとマッチングのイベント（英語）を開催。
- 候補者はメンタリング（事業内容とプレゼン）を行い、代表チームの紹介を拠点の代表者が行う形式をとった。
- 当日の参加登録者は400名（外国籍比率 30%）
- シーズ部門の優勝者：
TeSH 北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）教授 都英次郎
- スタートアップ部門の優勝者：
PSI 株式会社PURMX Therapeutics CEO/代表取締役社長 田原栄俊
- 優勝者の技術内容についてはNature Onlineに掲載。



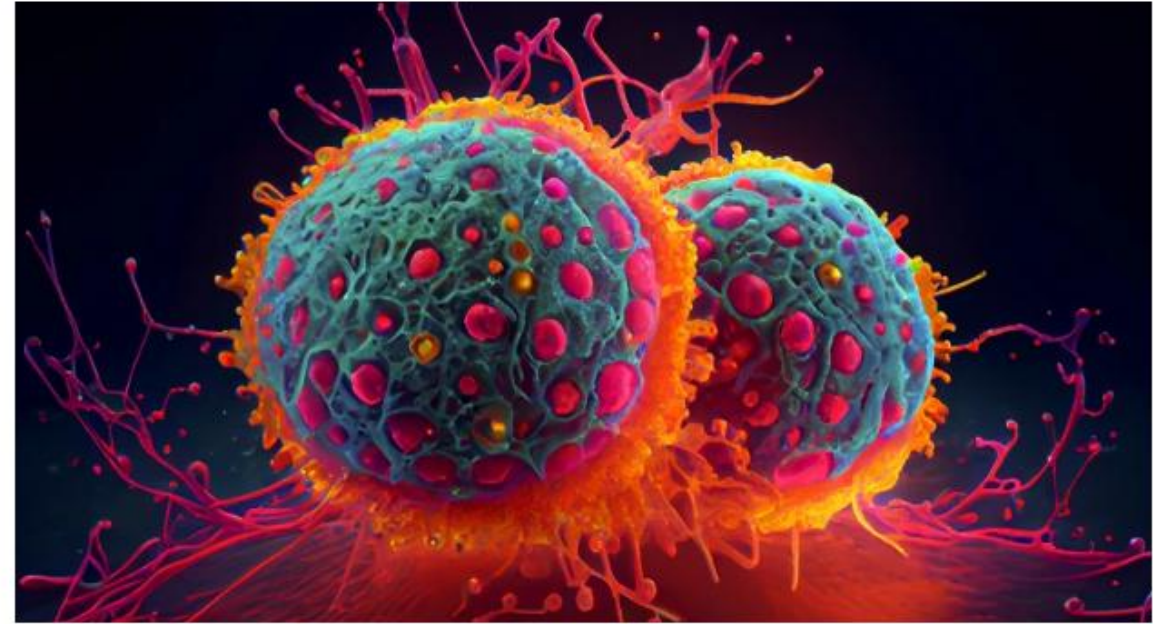
PARTNER CONTENT Partner retains sole responsibility for the content of this article

Could cancer-attacking bacteria offer a new way to treat tumours?

Unusual microbes that strike cancerous tumours, and microRNAs that make cancer cells vulnerable, are among the topics of ambitious bioscience projects being explored in Japan.

Produced by

nature
custom media



An artist's impression of cancer cells. A combination of two different bacteria might allow scientists to attack tumours. Credit: Kateryna Kon/Shutterstock

The experiment should have been an exercise in futility. Bioengineer Eijiro Miyako had isolated two species of bacteria, one of which sometimes colonizes tumorous tissues, and used them in an attempt to stimulate an immune reaction in cancer-afflicted mice. These mice had compromised immune systems from prior treatments, so he wasn't expecting it to work. But contrary to all expectations, the tumours in the mice didn't just diminish, they vanished¹.

<https://www.nature.com/articles/d42473-025-00331-3>

今後の課題

- 創薬と医療機器：創薬と医療機器では展示会やアクセラレーターも別に検討。
- 知財戦略の上流介入の重要性：知財は「成果が出てから」では遅い。研究テーマ設定段階から関与しないと、特許の質が低下し国際競争力を失う。ただし、この段階では相談がほとんど来ないという現実から対処を検討。
- モダリティごとの支援体制：知財戦略や競合パイプライン分析などは、モダリティ別の経験知が不可欠（特にバイオ医薬品）。個々の大学が全分野をカバーするのは非現実的。
- チームビルディングにおけるダイバーシティ確保：スタートアップ創出に至る過程で最も重要なのはチームビルディング。ジェンダーや外国人、企業での経験、起業経験などの豊富なチームが望ましく、この時点で成長性が決まる。
- AIとの接点：創薬においての高度なAIの利用環境は必須（前提条件）。企業連携、海外連携も含めて充実させるための方策が必要。